

平成28年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6・27日実施)	総合評価(4月1日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	学習意欲を高め、基礎学力や社会性を身につけさせるとともに、有意義な高校生活を送ることができる仕組みを充実させる。 (1) 生徒の基礎学力の習得と希望進路の実現に向けた学力向上を図る。 (2) 授業改善により、生徒の主体的で協働的な取組を促す。	・社会性を身につけさせるための仕組みの充実 ・基礎学力の習得 ・希望進路実現に向けた学力向上 ・生徒の主体的で協働的な取組を促すための組織的な授業改善	・「体験活動」、学校外の学修、インターンシップ等の体験的な学びの推進 ・小集団学習による学力・学習意欲の向上 ・学習指導要領に基づく教育課程の編成と特色ある科目の推進 ・生徒の主体的で協働的な取組を促す組織的な授業改善への取組	・体験的な学びを提供できたか ・学習意欲が向上したか ・基礎学力が定着し、学力が向上したか ・教育課程編成に向けた取組ができたか ・授業改善に向けた取組ができたか	・学校外の検定試験への参加者が増えるとともに、上位の資格を獲得した。 ・インターンシップは、横浜南地区の拠点校として活動し、地区のインターンシップ活動の活性化に貢献するとともに、校内では昨年度以上の参加者を得て、大きな成果を上げた。その他、「仕事のまなび場」、体験入学への参加者なども例年並みで、多くの体験的な学びの場を提供することができた。 ・生徒の実態に即した教材の見直しを引き続き行っている。 ・教育課程の具体的な見直しに取組み始めた。 ・研究授業で授業改善に向けた取組ができた。	・基礎力診断テストの活用方法を考え、学び直しの授業に役立てる。 ・インターンシップは、その仕事内容が多岐・長期にわたり、担当者の負担が大きい。今後は、地区の学校との仕事の分担、仕事の精選が課題である。 ・クリエイティブスクールとしての教育課程の見直しをさらに進める。 ・公開研究授業・研究協議のまとめをいかし、さらに組織的な授業改善に取り組んでいく。	・ベーシックも力に応じてドリルの内容を変えてはどうか。 ・漢字検定の受検級については受けたい級をいくつかも受けてはどうか。 ・土曜教室に参加したくても部活動が理由で欠席は認めてもらえず、登録ができなかった。試合で出られない場合は可とするなど登録のあり方を改善してほしい。 ・教育課程については、相当工夫をして力を注いだもので、生徒がわかる授業につながっている。	・学校外の検定試験への参加者が増えるとともに、上位の資格を獲得した。 ・インターンシップは、地区のインターンシップ活動の活性化に貢献するとともに、校内では昨年度以上の参加者を得て、大きな成果を上げた。 ・研究授業で授業改善に向けた取組ができた。 ・授業の35週確保をどう実現するかが検討課題である。	・チャレンジ&ベーシックの授業内容の見直しを行う。 ・土曜教室の参加条件を見直す。 ・授業改善において成果が得られているので、さらなる改善に向けて新たな取組を検討する。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	(1) シチズンシップ教育の一環として規範意識の一層の向上を目指す。 (2) 個に応じた生徒指導・支援を充実させる。	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 ・生徒一人ひとりの個に応じた生徒指導と支援	・基本的な生活習慣の確立に向けた指導の徹底 ・「生徒心得」に基づく頭髪・服装指導及び全校集会等における集団行動の徹底 ・交通安全や食育等健康管理に関する意識の向上 ・環境教育を通じた公共心や責任感の育成 ・教職員の連携による教育相談体制の充実	・指導が徹底できたか ・集団行動が徹底させられたか ・規範意識を理解させることができたか ・健康管理に関する意識が向上したか ・公共心・責任感が育成できたか ・連携による教育相談体制が充実できたか	・頭髪、服装指導、遅刻指導を計画的に行い生徒の意識を高めることができた。 ・始業式、終業式等の全校集会において集団行動の意識を高めることができた。 ・集会やLHR、特別指導を通じて規範意識を高めることができた。 ・全校集会や交通安全教室により、交通安全への意識を高めることができた。	・頭髪、服装、遅刻指導を定期的にかつ日常的に行っているが守れない生徒が一定数いる。今後もさらに効果的な指導方法を模索していく。 ・今年度は交通安全教室の講師を教員が行った。今後、さらに効果的な映像資料や講演方法の研究開発に取り組んでいく。	・制服の乱れた生徒がおり、指導はきつめに行ってもらっているようだがその成果が現れていない。 ・釜利谷は以前に比べてかなりよくなっていると思う。その点をもっと外部にアピールすべきである。	・生活指導において生徒の意識を高め一定の成果を上げることができているが、指導の浸透していない生徒もいる。外部では良くない点に目がいってしまう傾向がある。 ・	・生活指導においては今後もさらに効果的な指導方法を模索していく。 ・公共心や規範意識の浸透に向けた指導方法を模索していく。 ・交通安全については、今年度の成果を踏まえ、PTAとも連携し、交通安全教室の充実を図っていく。
3 進路指導・支援	(1) 計画的な進路指導の実践により、生徒一人ひとりの進路意識を育てるとともに進路希望の実現を支援する。 (2) 生徒の自主的・主体的な活動を通して生徒のリーダー性を高める。	・計画的な進路指導の構築と実践 ・生徒一人ひとりの進路意識の育成とともに進路希望の実現への支援 ・生徒のリーダーシップの育成	・キャリア教育実践プログラムの改善及び実践による進路意識育成と進路実現に向けた指導の充実 ・人間関係能力や社会性を養うことによる適応能力の高い人格形成 ・部活動及び生徒会活動の活性化	・進路意識を育成できたか ・進路希望実現に向けた指導ができたか ・キャリア教育実践プログラムを改善できたか ・SSE等の取組が効果をあげたか ・部活動・生徒会活動が活性化したか	・進路ガイダンスによる一斉指導や担任・進路指導担当者などによる個別指導の組み合わせにより、進路意識の育成、進路実現に向けた指導ができた。 ・グループ内でキャリア教育実践プログラムの改善を検討し、企画会議に報告した。 ・4,5,7,11月にSSEを実施した。3月にも実施した。 ・外部機関と連携しながら情報を共有したうえで、個々の生徒についての支援を検討し行った。 ・SSW・外部講師による校内研修会を実施し、支援の有効活用方法への理解及び生徒理解を深めた結果、相談件数も多く支援に生かされた。 ・部活動の写真掲示や説明会を通じて部活動の活性化に努めた。食に関するアンケートを実施し生徒の実態を把握し、食生活の改善に向けて検討した。生徒会のより共生的な学校に向け	・キャリアの時間を利用した指導により進路意識の向上や進路実現に向けた指導を行い一定の成果を上げているが、今年度3年生の進路決定率は昨年度並みであり、進路未決定者の数を減らすことができない。今後は、キャリアガイダンスグループから他のグループや学年、教科へキャリア教育推進の推進について発信力を強めてゆくことが改善の方法だと考える。そのためにも、キャリア教育実践プログラムについても、職員の意識の共有化を図りたい。 ・SSEについて、実施方法や内容について検討していく必要があると思われる。また、効果測定の方法についての研究が課題となる。 ・週1回のコーディネーター会議においてSC及びSSWと情報を共有することで、生徒の現状をより正確に把握し	・面談が年1回しかない。2年では2回、3年では学期ごとにあるとよい。 ・学年懇談会はあるが、担任と直接話ができる学級懇談会も開いてほしい。 ・生徒への様々な支援がグランドデザインとなつた形で行われている。	・キャリアの時間を利用した指導により進路意識の向上や進路実現に向けた指導を行い一定の成果を上げているが、今年度3年生の進路決定率は昨年度並みであり、進路未決定者の数を減らすことができない。 ・外部機関と連携しながら情報を共有したうえで、個々の生徒についての支援を検討し実施することができた。 ・SSW・外部講師による校内研修会を実施し、支援の有効活用に関する理解及び生徒理解を深めた結果、相談件数も多く支援に生かされた。	・キャリアガイダンスグループから他のグループや学年、教科へキャリア教育推進について発信力を強めてゆく。そのためにも、キャリア教育実践プログラムの意識の共有化を図る。 ・入学時の任意のアンケートに基づいて作成した個別支援カードを活用し共有し、さまざまな支援のニーズに迅速に対応できるようにする。 ・生徒及び職員対象の研修会を実施し、食生活の改善に向けて取り組む。

						<p>での主体的な活動を促進し、リーダーシップを育てた。</p>	<p>支援に生かしていく。不登校の生徒の情報を早期に集約し、より迅速な支援につなげていく。外部機関と連携し、より迅速な支援が行われるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時の任意のアンケートに基づいて作成した個別支援カードを活用し共有することで、さまざまな支援のニーズに迅速に対応できるようにする。 ・生徒及び職員対象の研修会を実施し、食生活の改善に向けて取り組む。 			
4	地域等との協働	<p>地域に根ざし、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者との連携による開かれた学校づくりの構築 ・広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携による地域貢献活動の充実・推進 ・校内体制の確立による地域との連携・協働の推進 ・広報活動による地域との関係づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動が充実できたか ・校内体制が確立したか ・地域との関係づくりができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA と連携して、地域とのつながりをもった活動を行うことができた。 ・地域貢献活動における清掃活動は例年通り行うことができた。地域に根差す行事として定着している。 ・昨年実施できなかった地域に向けた公開講座を実施し、好評であった。 ・広報紙『とも綱』を発行し地域に向けて発信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献デーの扱いについては、授業時間確保の視点と併せて検討の必要がある。 ・地域懇談会で提示いただいた地域との協働の実現を目指したい。 ・公開講座は校内体制として、講師の確保が課題。教員の異動に伴い、継続が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の生徒が独自に校外清掃を行っているのはいいことだ。熱心に行っており、他の部活動も交代でやってはどうか。ユニフォームを着て行えば宣伝にもなり、地域の方にも部活動を含めて理解が得られるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献デーも定着し、清掃活動が地域に根ざすものとなってきた。地域との共同作業も視野に入れていきたい。 ・地域との交流や地域での活動が評価を受けつつある。地域との交流をどのように広げていくかが検討課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治会等と連携した清掃活動を探っていく。 ・地域で好評を博している公開講座を毎年、開催できる仕組みを作り、継続的に講座を提示できるようにする。
5	学校管理 学校運営	<p>(1) 事故・不祥事を防止するとともに、教職員の能力を生かした円滑な学校運営を行う。</p> <p>(2) 防災意識を高め、安全で安心できる教育環境を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事故・不祥事防止の徹底 ・教育力向上のための学校運営体制の確立 ・防災意識の向上と安全で安心できる教育環境の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護、諸表簿作成等の点検体制、適正な私費会計処理の徹底 ・情報の共有化と業務文書等の整理と管理の徹底 ・釜利谷協議会との連携 ・防災意識を高める仕組みと、安全で安心できる教育環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故ゼロに向けた取組を行ったか。 ・情報の共有化と業務文書等の整理と管理が徹底できたか ・学校運営体制が確立できたか ・防災意識を高められたか。 ・安全安心の教育環境を作ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書管理、会計処理について滞りなく、適切に事故なく対応できた。 ・事故防止に向けて、管理職を中心に日常的な啓発を行った。 ・防災訓練等を実施し、避難経路の確認を行ない、生徒の意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計事務処理については、引き続き会計研修を実施して、事故防止に努めたい。 ・私費会計の健全化を目指し、諸会費の見直しを図りたい。 ・今後、防災訓練において、近隣地域との連携が必要になっていくと思われるが、どのように実施していくか。生徒を地域の避難訓練に参加させることや地域住民の参加など、内容を含めて検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭で不審者情報が出たときの教員の集団で動く対応がよかった。 ・防災や通学途中の被災があっても学校に備蓄があるので安心だ。 ・マチコミメールの発信が遅いように思う。 ・学校には、配布する文書等をよく点検してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計事務処理については財務課からの指摘事項もなく、整然と行われている。諸会費の見直しについても検討が進んだ。 ・防災に係る備蓄は進んでいるが、さらなる充実が必要でもある。地域との連携による防災訓練も検討課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計事務に関するレクチャーを含めた会計研修を実施し、会計事務処理の充実を図る。 ・備蓄については再度必要なものを検討し、災害に備える。 ・地域の防災訓練参加を具体的に検討していく。